



徳島の土地改良

2023

1

No.176



レンコン田（鳴門市）

CONTENTS

- 新年のご挨拶
岡本芳郎 徳島県土地改良事業団体連合会会長
飯泉嘉門 徳島県知事
進藤金日子 参議院議員
宮崎雅夫 参議院議員
- 令和5年度農業農村整備事業関係予算
概算決定の概要
- 農業農村整備の集い
- 第44回全国土地改良大会沖縄大会
- 徳島県知事への要請活動
- 令和4年度土地改良区役職員研修会
- 土地改良団体における男女共同参画推進研修会
- 令和4年度換地関係異議紛争処理実務研修会
- 会議・行事



新年のご挨拶

水土里ネット徳島
徳島県土地改良事業団体連合会

会 長 岡 本 芳 郎

令和5年の新春を迎え、謹んでご祝詞を申し上げます。

会員各位並びに農業農村整備事業関係者の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、平素より本会の業務運営に格段のご高配を賜りますとともに、農業農村整備事業の推進に多大なるご尽力とご協力をいただいておりますことに対し、深く感謝申し上げます。

さて、昨年、過去最多18個のメダルを獲得した北京冬季五輪での日本人選手の活躍や、日本中を熱狂の渦に巻き込んだサッカー・ワールドカップカタール大会における日本代表チームの劇的勝利など、特にスポーツの分野において明るい話題がありました。また、3年目となるコロナ禍において、感染拡大の波を乗り越えつつ、少しずつではありますが社会経済活動に活気が戻る兆しが見えた一年でありました。

一方、現在も続くロシアのウクライナ侵攻により、我が国の食料安全保障の課題が浮き彫りになるとともに、肥料・資材価格や燃油・電力などのエネルギー価格の高騰は、農業従事者に大きな影響を及ぼし、とりわけ揚水機等を維持管理する土地改良区においては、急激な電気料金の負担増が財政を圧迫する状況が続いております。こうした状況を踏まえ、本会では、全国土地改良事業団体連合会と連携した国への要請活動や、県への緊急支援要請に取り組んだところであり、今後も引き続き、会員の皆様が安心して農業用水の安定供給を図り、地域の農業を支えていただくことができるよう努めてまいります。

また、昨年4月、県からの委託を受け、本会に「徳島ため池管理支援センター」を開設いたしました。古くから本県の農業・農村を支えてきた「農業用ため池」の老朽化や利用者の減少、豪雨被害の影響が懸念される中、ため池の適正な管理・保全と効果的な防災工事を推進するため、技術的助言や現地パトロールなど管理者へのきめ細やかなサポートに取り組んでおります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

昨年末に閣議決定された国の令和5年度農業農村整備事業関係予算の概算決定額は、対前年度比で100.1%の4,457億円、令和4年度補正予算1,677億円と合わせて6,134億円となっており、5年連続で6,000億円を上回る予算額が確保されました。生産効率の向上、農業の高付加価値化を図る農地の大区画化・汎用化や、水田における高収益作物の導入、スマート農業の推進、また、土地改良施設の長寿命化や防災・減災対策の推進など、農業農村整備事業の一層の推進が図られるものと大いに期待しているところです。

本会といたしましても、農業農村整備事業の強力な推進による「強い農業と活力ある農村」の実現に向け、国・県と緊密に連携し、現場の声をしっかりとお聴きしながら、これまでの経験や培ってきた技術を最大限発揮して、会員皆様のご期待に応えられるよう、役職員一同、全力で取り組んで参りますので、引き続きのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様にとって幸多き一年となりますようご祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。本年も何卒よろしくようお願い申し上げます。



新年のご挨拶

徳島県知事 飯 泉 嘉 門

明けましておめでとうございます。

皆様には、輝かしい新年をお健やかに迎えのことに、心からお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中、ロシアのウクライナ侵攻により、国際秩序が大きく揺らぐとともに、世界中でエネルギー価格や物価が高騰するなど、世界情勢が激変した一年となりました。

本県では、この歴史的な危機に対し、県民の皆様の「暮らしと命」、「業と雇用」を守るため、「宿泊助成」や「飲食・交通・生活衛生」3つのプレミアムクーポン事業による需要喚起をはじめ、借り換え需要に応える「資金繰り支援」の充実強化、さらには、経済的に困窮する方々への「支援金の給付」や子ども食堂への障がい者就労支援施設等で生産された県産食品や県産米の支給など、切れ目の無い支援を実施して参りました。

農業分野におきましても、肥料の高騰や米価の大幅な低下による極めて厳しい経営環境の中、農業者の皆様の営農継続に向け、「肥料の価格高騰による負担」軽減への支援を行うとともに、県産米の消費拡大に向け、若者世代への無償提供による認知度向上の取組みを展開するなど、本県独自の取組みを実施して参りました。また、徳島県土地改良事業団体連合会ははじめ関係の皆様からのご要望を踏まえ、揚水機などにかかる電気料金の高騰分の一部を緊急的に支援し、農業者の皆様の負担軽減と土地改良区の健全運営の確保を図りました。

一方、農業農村整備については、当時、全国知事会長はもとより、地方六団体の代表として、「国と地方の協議の場」など、あらゆる機会を通じて国に提言した結果、創設された「防災・減災、国土強靱化5か年加速化対策予算」を最大限に活用し、「災害列島」を迎え撃つ、「農業水利施設の老朽化対策」や「防災重点農業用ため池の防災工事」など、農山漁村の県土強靱化を強力に推進して参りました。

また、ため池に起因する災害の未然防止に向け、昨年4月には、徳島県土地改良事業団体連合会のご協力のもと「徳島ため池管理支援センター」を新たに設置、ため池管理者が実施する「日常管理や保全対策へのサポート」を開始しました。

さらには、農業競争力の強化に向け、農地中間管理機構と連携し、農家負担を伴わない「ほ場整備事業」をはじめ、高収益作物の導入やICT技術の活用によるスマート農業を見据えた生産基盤整備など、担い手への農地集積・集約化を推進して参りました。

さて、今年の干支は「癸卯（みずのと・う）」。「癸」は物事を揆（はか）る基準を表し、万事筋道を立てて処理すれば「吉」、誤ると「凶」を意味し、「卯」は門扉を開いた姿を象形するとともに、茆（かや）に通じ「良いと繁栄、悪いと紛糾」を意味します。そこで、「癸卯」は、「筋道を立てて事を進めれば「繁栄」が約束され、怠れば紛糾し、混乱へと向かう」とされます。

本年も引き続き、「もうかる農業」の実現に向けた「生産基盤整備の推進」とソフト・ハード両面からの防災・減災対策による「農山村地域の強靱化」に取り組むとともに、徳島県土地改良事業団体連合会の皆様と連携し、次世代を担う人材育成をしっかりと支援して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員 進 藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。

徳島県土地改良事業団体連合会の皆様には、旧年中、大変お世話になりました。お陰様で先般の参議院議員選挙で再選を果たすことができました。二期目においても、引き続き現場主義、地域主義に徹して政策実現に努めてまいりる覚悟です。本年も何卒宜しくお願ひ致します。

懸案の土地改良予算については、昨年12月に成立した令和4年度補正予算で1,677億円（TPP等対策：760億円、国土強靱化5か年加速化対策：817億円、食料安全保障対策：100億円）が措置され、また、令和5年度当初予算政府原案は昨年度より4億円増加の4,457億円で、補正予算と合わせて6,134億円となりました。これらには農業水利施設の電気料金高騰対策も盛り込まれ、本年度と同様に地域の要望に応えられる所要の予算が確保できたものと考えています。

さて、昨年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症が続く中、2月のロシアのウクライナへの侵略により、エネルギー価格の上昇、穀物価格や飼料価格の上昇、肥料価格の高騰、円安の急激な進行による物価の上昇等があり、これらは国民生活に大きな影響を与えています。政府は、エネルギー価格や電気料金、肥料価格等の高騰対策を講じてきたところですが、これらを含め物価高は本年も続くと思われまふ。引き続き、物価動向を注視しながら必要な対策を講じることが重要であり、私も各種対策の実現に貢献してまいりる覚悟です。

昨年7月の再選後、全国各地で講演等を行ってまいりました。そこで感じたのは、経済安全保障と食料安全保障に対する国民の意識の高まりです。昨年後半の円安の進行も踏まえ、各種生産拠点の国内回帰をはじめ国内での強靱なサプライチェーン再構築の緊急性を改めて認識しております。

また、昨年6月の参議院決算委員会で、私は政治信条である「食料安全保障」について岸田総理に対し質問しました。総理からは「食料の安定供給の確保は国家の国民に対する最も基本的な責務の一つ。新しい資本主義のビジョンの下、食料安全保障を強化するべく政府一体となって取り組んでいきたい」との答弁を頂きました。

私は、「食料供給力」（国内生産力、輸入力、備蓄）の中で弱体化している国内生産体制の強化が喫緊の課題で、まさに「食料自給力」の強化が不可欠であると訴えています。その最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、自給力の強化を図るには、農地と水の持つ機能を高める土地改良を中長期的な展望を持って推進していくことが重要です。このため、今後も予算を安定的に確保するとともに、貴重な予算を効率的、効果的に執行し、目に見える成果を出していく必要があります。

本年も土地改良推進に対する貴連合会の皆様のご協力をお願い致しますとともに、皆様からのご指導とご鞭撻を心からお願い申し上げ、新年のご挨拶にさせていただきます。



新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問

参議院議員 宮崎 雅夫

新年明けましておめでとうございます。徳島県土地改良事業団体連合会の会員各位ならびに関係の皆様方へ謹んで初春のお慶びを申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃より地域の重要な資源である水と土を守り、地域農業の発展や農山村の活性化に向け、農業農村整備事業の円滑な推進ならびに土地改良施設等の適切な管理や土地改良区の適正な運営にご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、旧年中は、私の活動に対し多大なるご支援とご指導を賜りましたことに衷心より感謝申し上げます。

さて、私も皆様方から多くのご支援をいただきながら、昨年8月まで農林水産大臣政務官を務めさせていただき、その間皆様方から多くのご要望等をお受けしましたが、それぞれの地域の課題解決等に向け、進藤金日子議員や農水省の職員の皆さん等と共に一所懸命に対応させていただきました。これらご要請の事項を含め、昨年12月に成立した平成4年度第2次補正予算では、農林水産関係で総額8,206億円、このうち、農業農村整備事業関係については、1,677億円（食料安全保障強化対策100億円、総合的なTPP等関連対策760億円、防災・減災、国土強靱化817億円）が措置され、この中には、皆様方から強いご要望があった土地改良施設にかかる電力料金の高騰対策として、増嵩分の7割を支援する新たな制度も含まれています。また、令和5年度の当初予算概算決定額として、前年を上回る4,457億円が計上されており、合計額は6,134億円となる見込みとなりました。これから行われる国会での議論において、しっかりと確保できるよう努めてまいります。

さらに、昨今の国際情勢や長引くコロナ禍により、農業農村にも多くの影響が及んでいますが、とりわけ、カロリーベースで6割程度を輸入に頼る我が国の食料事情にあって、その安定供給を図る食料安全保障の確立に向けた取り組みが求められております。国内農産物の生産を支える農地や水利施設等の整備・維持という重要な役割を土地改良が担っており、農業従事者数の減少傾向に対応するスマート農業を視野に入れた土地改良の取組促進や農業農村関係人口の拡大などを含め、しっかりと推進していくことが重要です。

私も、卯年の今年には年男を迎えますので、「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を理念に初心に立ち返り、これまでも増して現場主義に徹し、現場や地域の課題をしっかりと伺いして皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保と現場の実情に即した制度の充実に向け、誠心誠意努力してまいります決意ですので、引き続きご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、徳島県土地改良事業団体連合会ならびに会員土地改良区、関係機関の益々のご発展と皆様方のご健勝を心より祈念申しあげ私の新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

令和5年度 農業農村整備事業関係予算 概算決定の概要

令和4年12月23日（金）、国の令和5年度予算案が閣議決定されました。
 農林水産関係予算は、2兆2,683億円（対前年度比99.6%）となっています。
 このうち農業農村整備事業は、3,323億円で、対前年度比100.1%の増額予算となっています。

農業農村整備事業関係予算 概算決定の概要

（単位：億円）

事 項	令和4年度 当初予算額	令和5年度 概算決定額 A	令和4年度 補正予算額 B	合 計 A+B
農業農村整備事業<公共>	3,321	3,323 (100.1%)	1,677	5,000 (150.5%)
農業農村整備関連事業<非公共> （農地耕作条件改善事業 農業水路等長寿命化・防災減災事業 畑作等促進整備事業 農山漁村振興交付金）	540	543 (100.6%)	-	543 (100.6%)
農山漁村地域整備交付金<公共> （農業農村整備分）	591	591 (100.0%)	-	591 (100.0%)
合 計	4,453	4,457 (100.1%)	1,677	6,134 (137.8%)

（注）1. 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しない場合がある。
 2. 下段（ ）書きは令和4年度当初予算額との比率である。

農業農村整備事業の概要

（単位：億円）

事 項	令和4年度 当初予算額 (A)	令和5年度 概算決定額 (B)	対前年度比 (B)/(A)	令和4年度 補正予算額 (C)	合計	
					((B)+(C)) (D)	対前年度比 (D)/(A)
農業農村整備事業						
国営かんがい排水	1,059	1,038	98.1%	138	1,176	111.0%
国営農地再編整備	403	403	100.1%	204	608	150.8%
国営総合農地防災	291	281	96.8%	64	346	118.9%
直轄地すべり	4	7	163.8%	-	7	163.8%
水資源開発	80	85	106.1%	6	91	113.7%
農業競争力強化基盤整備	629	635	101.0%	820	1,455	231.4%
農村地域防災減災	407	411	101.0%	400	811	199.2%
中山間地域農業農村総合整備	51	49	95.9%	13	63	122.1%
農村整備	71	72	102.4%	14	87	122.6%
土地改良施設管理	191	213	111.5%	17	230	120.5%
その他	135	127	93.6%	-	127	93.6%
合 計	3,321	3,323	100.1%	1,677	5,000	150.5%

（注）1. 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しない場合がある。
 2. 対前年度比は令和4年度当初予算額との比率である。
 3. その他には後進地域開発特例法適用団体土地改良等関係開発指定事業補助率差額金を含む。
 4. 国営かんがい排水には土地改良施設突発事故復旧事業（直轄）を、農業競争力強化基盤整備には土地改良施設突発事故復旧事業（補助）を含む。

農業農村整備の集い

—農を守り、地方を創る予算の確保に向けて—

令和4年10月20日（木）、シェーンバッハ・サボー（東京都／砂防会館別館）において、「農業農村整備の集い」が開催され、全国の土地改良関係者約900名（徳島県からは岡本会長はじめ本会及び土地改良区役職員10名が参加）、国会議員約150名が参集しました。

はじめに、主催者である全国土地改理事業団体連合会の二階俊博会長から「農家の方々の期待に添えるよう十分な予算確保に向けて一致団結していく必要がある。また、男女共同参画の取り組みを本格化させていく時期が来た。目標達成に向け集中的な取り組みをお願いしたい。「闘う土地改良」は限りなく続く。男女ともに一致団結して更なる戦いを続けるようお願いしたい。」との挨拶がありました。

また、藤木眞也 農林水産大臣政務官、遠藤利明 自民党総務会長、森山裕 TPP・日EU・日米TAG等経済協定対策本部長、江藤拓 自民党総合農林政策調査会長、武部新 自民党農林部会長、全国水土里ネット会長会議顧問・進藤金日子参議院議員から来賓祝辞がありました。

その後、予算確保等の要請文案の提案・採択（全会一致）、胆沢平野土地改良区 及川正和理事長から「女

性理事登用」の事例発表、全国水土里ネット会長会議顧問の宮崎雅夫参議院議員から情勢報告が行われ、最後に、参加者全員によるガンバロウ三唱で閉会しました。

集い終了後、本県からの参加者は本県選出国会議員を訪問し、集いで採択された要請文案により要請活動を行いました。



二階全土連会長



藤木農林水産政務官



遠藤自民党総務会長



全国水土里ネット会長会議顧問
進藤参議院議員

第44回全国土地改良大会沖縄大会

令和4年11月22日（火）、第44回全国土地改良大会沖縄大会が「水土里の拓くみるく世を鳴らしとゆまし守禮の邦から」をスローガンとして、沖縄アリーナ（沖縄市）において開催されました。3年ぶりの対面開催となった大会には、全国から土地改良関係者約2,300名が参集しました（徳島県からは岡本会長はじめ本会及び土地改良区役職員19名が参加）。



はじめに、主催者である沖縄県土地改良事業団体連合会の古謝景春会長から開会挨拶があり、続いて、同じく主催者である全国土地改良事業団体連合会の二階俊博会長から「予算獲得に向け、私たちは常に『闘う土地改良』を標榜している。一致団結して闘っていこうではないか。そして、私たちの背後には日本の農業を守ってくださる多くの仲間、同志がいる。この方々の期待に応えなくてはならない。」との挨拶がありました。

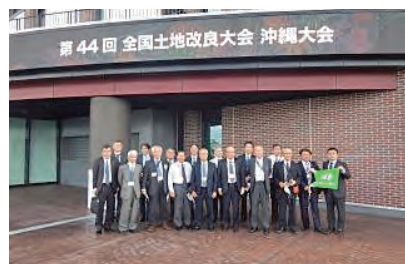
引き続き、玉城デニー 沖縄県知事、桑江朝千夫 沖縄市長から歓迎のことば、勝俣孝明 農林水産副大臣、西銘恒三郎 衆議院議員（沖縄県選出）から来賓祝辞、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問 進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫参議院議員からビデオメッセージによる祝辞がありました。

式典では、土地改良事業の推進にご尽力され多大なる貢献をされた方々の功績を讃え、表彰式が執り行われました。本県からは、井上武 勝浦川土地改良区理事長が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞されました。

また、基調講演では、「夢（いみ）をつなぐ土地改良」と題して、安部伸治 農林水産省農村振興局次長から「沖縄の農業・土地改良の歩み」、「安全・安心な農村地域の実現」などについての講演、優良事例紹介として、農業生産法人(有)大嶺ファーム 土地登代表取締役から「地下ダムが変えた宮古農業とこれからの期待」、當山眞市 瀬名波土地改良区理事長から「軍用地返還跡地土地改良事業」についての発表がありました。その後、沖縄県土地改良事業団体連合会職員2名により大会宣言（持続的な農業・農村を可能とするため「水」「土」「里」を守り、引き継いでいく）が読み上げられ、最後に、次期開催県である福井県へ大会旗が引き継がれました。



井上理事長



参加者集合写真（大会会場前）



会場（沖縄アリーナ）の様子



事業視察（慶座地下ダム）

徳島県知事への要請活動（電気料金高騰への支援）

徳島県土地改良事業団体連合会は、ウクライナ情勢等に伴う農事用電気料金の高騰により、揚水機等の農業水利施設を管理する土地改良区の財政負担が増大し厳しい状況となっていることを踏まえ、令和4年11月8日（火）、飯泉嘉門 徳島県知事へ支援の緊急要請を行いました。

岡本会長から飯泉知事へ要請書を手渡し、土地改良区の実状等について説明を行い、飯泉知事からは「臨時交付金（国）と一般財源（県）を合わせる形でご支援させていただきたい。そして直ちに、11月の補正予算に組み込み、議会に諮りたい。皆様には日頃から農業施設の維持管理に大変なご苦勞をいただいていることに、少しでも報いることができるよう、しっかりと対応したい。」との回答をいただきました。

なお、その後の徳島県議会11月定例会の開会日（11月28日）に、「土地改良施設・電気料金高騰対策緊急支援事業」として補正予算が提案され、即日承認されました。本会からの要請に対し、迅速に対策を講じていただきました。厚くお礼を申し上げます。

要 請 書 (抄)

～農業水利施設にかかる電気料金の高騰に対する緊急支援について～

土地改良区としては、今後も農業用水の安定供給を図り、地域の農業を支えるという責務を果たしていくため、水路の漏水対策や揚水機の運転時間削減などの節電対策はもとより、より一層の健全経営に取り組む所存でありますので、県におかれましては、このような状況を御賢察いただき、電気料金高騰に対する格別の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年11月8日

徳島県土地改良事業団体連合会 会長 岡本 芳郎



徳島県知事への要請活動（農業農村整備事業の推進）

徳島県土地改良事業団体連合会は、令和4年12月16日（金）、飯泉嘉門 徳島県知事に対し、農業農村整備事業の推進による「強い農業と活力ある農村」の実現に向けた要請を行いました。

岡本会長から飯泉知事へ要請書を手渡し、本県の農業・農村における課題や要請内容について説明を行い、飯泉知事からは「『予算の確保』については、防災・減災、国土強靱化5か年の事業の予算化にしっかりと取り組みたい。『ため池対策』については、ため池の保全が大変重要であり、ハード・ソフト両面の対策をため池管理支援センターを中心に行っていければ。『中山間地域対策・男女共同参画推進』は当然なくてはならない点であるので、皆様をしっかりとお支えできる体制整備の応援をさせていただきたい。」との回答をいただきました。

【要請事項】

- 令和5年度当初予算において、本県農業の発展を支える「農業農村整備関係事業」を計画的かつ効果的に展開するために必要な予算を確保すること
- 農業用ため池の適正な保全や維持管理、防災工事等の施策の実施にあたっては、県が積極的に関与するとともに、ため池管理支援センターや市町村、管理者に対し、必要な支援を行うこと
- 中山間地域における農業生産基盤や農村インフラの整備を推進するとともに、農地保全活動や地域コミュニティの維持に資する取組みへの支援など、きめ細やかな対策を講ずること
- 土地改良区の運営基盤・体制の強化を継続的に進めるとともに、土地改良の現場において多様な人材が活躍できる環境づくりや、男女共同参画に向けた地域の活動に対する支援の充実を図ること



令和4年度 土地改良区役職員研修会

徳島県農山漁村振興課、東部農林水産局、南部・西部総合県民局農林水産部の主催により、土地改良区の役員及び職員を対象に、土地改良法等の関係法令やコンプライアンス、その他土地改良施設管理に関わる事項について広く知識を付け、よりよい土地改良区運営や土地改良施設管理を行うための研修が、県内4箇所において開催されました。

研修会には、4日間を通して89団体、131名が参加しました。



研修会の様子

<日時・場所>

- 第1日 日 時：令和4年11月1日（火） 14：00～16：00
場 所：徳島県東部農林水産局（徳島庁舎）
- 第2日 日 時：令和4年11月2日（水） 10：00～12：00
場 所：徳島県東部農林水産局（吉野川庁舎）
- 第3日 日 時：令和4年11月11日（金） 10：00～12：00
場 所：徳島県南部総合県民局（阿南庁舎）
- 第4日 日 時：令和4年11月22日（火） 14：00～16：00
場 所：徳島県西部総合県民局（美馬庁舎）

<研修内容>

内 容	講 師 等
農業版BCPについて	徳島県 農山漁村振興課 次世代体制担当 主査兼係長 新宮 英志
令和4年度土地改良法改正等について	徳島県 農山漁村振興課 次世代体制担当 課長補佐 松田 良幸
次世代を見据えた基盤整備について	徳島県 農山漁村振興課 事業計画担当 課長補佐 鎌田 浩史 徳島県 生産基盤課 農業基盤整備担当 主査兼係長 小川 紀明
質疑応答	

土地改良団体における男女共同参画推進研修会

令和4年11月1日（火）、徳島合同庁舎において、全国土地改良事業団体連合会、徳島県土地改良区運営基盤強化協議会の主催による「土地改良団体における男女共同参画推進研修会」が開催されました。

研修会は、徳島県土地改良事業団体連合会 板東達生常務理事の挨拶で始まり、全国土地改良事業団体連合会 小笠原善友上席参与、中国四国農政局農村振興部土地改良管理課 田中禎史課長補佐による講演が行われました。

小笠原上席参与から「土地改良団体における男女共同参画の意義」として、男女共同参画推進の基本事項や手引きの使い方について、田中課長補佐から「男女共同参画に向けた手続等について」として、中国四国管内の現況説明、定款例等について、それぞれ詳しくお話をいただきました。

研修会には、県下の土地改良区より37名が参加し、講演後には活発な意見交換がありました。

<研修内容>

- (1) 土地改良団体における男女共同参画の意義、基本事項
講師：全国土地改良事業団体連合会 上席参与 小笠原 善友
- (2) 手引きの使い方
講師：全国土地改良事業団体連合会 上席参与 小笠原 善友
- (3) 男女共同参画に向けた手続等について
講師：中国四国農政局農村振興部土地改良管理課 課長補佐 田中 禎史



研修会の様子



板東常務理事 挨拶



小笠原上席参与 講演



田中課長補佐 講演

令和4年度 換地関係異議紛争処理実務研修会

土地改良区体制強化事業の「研修・人材育成」の一環として、全国土地改良事業団体連合会の主催により、令和4年10月7日（金）、「令和4年度中国四国ブロック換地関係異議紛争処理実務研修会」がウェブ会議で開催されました。

本研修は、土地改良換地に関する異議紛争の未然防止及び早期解決を図る研修と位置付けられており、農林水産省農村振興局整備部土地改良企画課、中国四国農政局農村振興部土地改良管理課、全国土地改良事業団体連合会中央換地センター及び中国四国管内の県並びに土地改良事業団体連合会から換地業務に携わる49名の技術者が参加し、本県からも4名の技術者が出席しました。

最初に、農林水産省より「換地を取り巻く状況」について情報提供があり、続いて、異議紛争事例として山口県から「事業予定区域における国土調査の結果、現地確認不能地となっている個人名義が存在している場合の処理事例」、本県からは「境界確定協議が整い、地区に編入した国有地を不換地で処理した事例」、香川県から「事業開始前に不換地内諾を得ていた土地について、事業開始後に不換地の同意が取得できず、事業計画を変更し、地区除外した事例」の発表があり、各事例について活発な討論が行われました。

最後に、全国土地改良事業団体連合会中央換地センターから、換地技術者名簿の分析により全国的に換地士の高齢化が進んでいる傾向にあることが報告されました。この状況を改善するため、本県においても資格取得を推進しています。



研修の様子

会 議 ・ 行 事

開催日	会 議 ・ 行 事	開催地
10月	7日(金) 令和4年度換地関係異議紛争処理実務研修会	Web会議
	11日(火) 中国四国土地改良事業団体連合会協議会事務責任者会議	香川県
	18日(火) 統合整備推進研修(会計研修)	徳島市
	20日(木) 農業農村整備の集い	東京都
	24日(月) 令和4年度第1回徳島県土地改良区運営基盤強化協議会	Web会議
11月	1日(火) 土地改良団体における男女共同参画推進研修会	徳島市
	1日(火) 土地改良区役職員研修会(徳島管内)	徳島市
	2日(水) 土地改良区役職員研修会(吉野川管内)	吉野川市
	8日(火) 徳島県知事への要請活動	徳島市
	10日(木) あわ水土里女性の会 第1回役員会	県土連
	11日(金) 土地改良区役職員研修会(阿南・美波管内)	阿南市
	17日(木)~18日(金) 土地改良施設の整備補修事例検討会	鳥取県
	22日(火) 第44回全国土地改良大会沖縄大会	沖縄県
12月	22日(火) 土地改良区役職員研修会(美馬・三好管内)	美馬市
	25日(金) 令和4年度徳島県土地改良区連合職員会 第2回役員会	美馬市
	8日(木) 令和4年度中国四国土地改良事業団体連合会協議会事務部会	岡山県
	15日(木) 令和4年度徳島耕地事業推進協議会通常総会	徳島市
	16日(金) 徳島県知事への要請活動	徳島市

表紙の写真

レンコン田(鳴門市)

徳島県は、レンコンの三大産地の一つで、茨城県、佐賀県に次いで全国第3位の収穫量を誇っています。特に大阪中央卸売市場では県産レンコンの占有率が60%以上と他県を圧倒しており、徳島県は京阪神におけるレンコンの最大供給地となっています。

鳴門市、松茂町、徳島市を中心に、良質な粘土質の土壌で栽培され、露地栽培やトンネル栽培、ハウス栽培を組み合わせて一年を通して出荷されています。

<参考> 農林水産省「令和3年作物統計調査」より *○数字は全国順位

レンコン 徳島県 作付面積 520ha② / 収穫量 4,850t③ / 出荷量 3,960t③



発行
みどり
水土里ネット徳島
徳島県土地改良事業団体連合会

〒770-0935 徳島市伊月町1丁目32番地
(徳島県土地改良会館)
代表(088)626-3211 FAX(088)655-3399
<http://www.tokudoren.jp.org/>
印刷所 グランド印刷株式会社